

福岡県の主な農産物の生産状況

平成 30 年 4 月 13 日現在

(専技情報より抜粋)

◇早期水稲（夢つくし、コシヒカリ）◇

田植は4月12日頃から始まり、4月下旬が最盛期で、5月上旬頃まで行われます。苗は、病害も見られず生育良好です。移植前3～5日に苗をハウス外に出し、苗を馴化しましょう。田植後、低温や風が強い場合には深水で苗を保護しましょう。

◇麦類◇

2月までの低温により、生育は5～7日程度遅れていました。3月の高温により持ち直したものの、出穂期は平年並～2日遅く、前年より2～4日遅いです。穂数は平年並～やや少なく、生育は概ね順調です。4月下旬までに穂揃期追肥作業や赤かび病対策が行われます。「ラー麦（ちくしW2号）」、「ミナミノカオリ」は、穂揃期追肥（穂揃期～穂揃期後7日）を必ず実施しましょう。赤かび病の対策は、小麦とはだか麦では開花期（出穂後7～10日）、大麦では葯殻抽出期（穂揃期後10日頃）に実施しましょう。硬質小麦や多発生が予想される場合には、7～10日後にもう一度実施しましょう。

◇冬春トマト◇

促成栽培の中心作型である9月下旬定植は、10段果房を収穫中です。冬期の低温で生育が遅れていましたが、2月下旬以降の気温上昇で平年並みの生育となっています。現在、着果負担で草勢が低下しており、果実もやや小玉傾向です。収穫後半に向けて草勢維持が図られており4月以降も順調に出荷される見込みです。灰色かび病の発生は平年よりやや少なく、コナジラミ類の発生が散見されます。草勢維持のため肥培管理を徹底しましょう。果実の品質低下防止のため換気も徹底しましょう。また収穫はなるべく涼しい時間帯に行い、収穫後は直射日光にあてないなど、果実温度管理を徹底しましょう。気温上昇に伴いかん水量を増加させますが、急激な乾湿差による裂果を防ぐため少量多回数でかん水を行いましょう。灰色かび病、コナジラミ類の対策を徹底しましょう。

◇キウイフルーツ◇

「ヘイワード」の展葉期は4月1半旬で、前年より3日程度早くほぼ平年並みです。29年度産の販売は、結実、肥大良好により数量増、単価安で推移しており、4月中旬に終了予定です。かいよう病は、防除対策を徹底し、発生が疑われる場合は速やかに関係機関に連絡しましょう。

◇ブドウ◇

12月加温の「デラウェア」は着色期で、5月1半旬から出荷見込みです。12月～1月加温の「巨峰」、「ピオーネ」は果粒肥大～着色期で、発芽の揃いも良く生育は概ね順調です。2月加温の「巨峰」、「ピオーネ」が開花～結実期、トンネル、露地が発芽～展葉期で、生育は平年より3日、前年より5日早くなっています。着色期を迎えている作型は、ハウス内温度管理と枝管理を徹底し、着色等の果実品質向上に努めましょう。開花結実期を迎えている作型は、灰色かび病の発生に注意するとともに、花穂調整、ホルモン剤処理等の適期管理を徹底しましょう。

◇トルコギキョウ◇

春出し栽培の生育・開花は、12月から2月の低温、寡日照により平年に比べて3週間程度遅れ、特に3月の出荷量は少ない状況でした。3月からの天候回復と気温上昇により開花は急速に進展しており、出荷最盛期は4月下旬となる見込みです。秋出し作型の播種、種子冷蔵処理が4月下旬より開始されます。茎葉の軟弱化防止のため、日中は25℃を目安に換気を行いましょう。開花期は、花の小輪化を防ぐため、夜温を12℃以上で管理しましょう。斑点病、灰色かび病対策のため、換気や湿度管理等の対策を徹底しましょう。

◇茶◇

「やぶきた」の萌芽期は4月1日で、平年より5日早かったです（八女分場）。八女地域平坦地の摘採は、4月13日頃から開始の予定です。新茶初入札は、昨年より4日早く平年より2日早い4月16日の見込みです。4月8日未明の低温により、八女の中山間地を中心に、凍霜害が発生しました。今後の生育は気象条件により大きく変動するので、芽の生育状況を十分に把握し、適期に摘採しましょう。凍霜害を受けた場合は、被害が重度の際には、速やかに整剪枝を実施しましょう。施肥およびハダニ対策を徹底しましょう。

◇肉用牛◇

3月の肉牛枝肉単価は、前月に引き続き低下傾向で推移しましたが、下げ幅は少なく前年同月水準を維持しました。過去5年比では、103～113%の水準を維持しています。韓国において豚で2例目（3/28）の口蹄疫が発生しました。毎日の家畜の健康観察の徹底、異常の早期発見・早期通報、農場の衛生管理を徹底しましょう。また、季節の変わり目に当たり肺炎等の発生に留意しましょう。